

企業理念

一本の大きな木を育てるより、
多くの個性ある木を育て、
美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、
ひとつの事業に特化することなく、
ウレタン・ゴム・プラスチック・複合材という4つの苗をもとに、
多くの事業(=木)を育て、
企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、
社会へ貢献して参りました。
イノアックはこれからも
多くの個性ある木を育てることで、
時代のニーズにお応えしていきます。

目次

目次・企業理念	01
会社プロフィール	
トップメッセージ	02
会社概要	05
【特集】環境に配慮した製品開発	
①植物由来のポリウレタンフォーム ECOLOCCEL(エコロセル)	06
②ポリウレタンフォームケミカルリサイクル	07
③架橋PEフォームリサイクル技術の開発 REPECO®(リペコ)	08
④カーボンファイバーリサイクル	09
【特集】海外でのCSR活動	10
環境との調和	
環境マネジメント	11
環境負荷の低減	13
化学物資の情報管理	15
価値向上のために	
品質向上への取り組み	16
社会とのコミュニケーション	
社会・地域貢献活動	17
働きやすい職場づくり	
社内制度の充実	19
人材育成	20
安全衛生・防災	21
サプライチェーンマネジメント	
サプライチェーンマネジメント	22
ガバナンス・コンプライアンス	
ガバナンス	23
コンプライアンス	24
報告対象	25



トップメッセージ

革新により生み出される独自技術で カーボンニュートラル必達に貢献



株式会社イノアックコーポレーション
代表取締役社長
翁 豊彦

Philosophy

コロナ禍の企業経営を下支えした 「多くの個性ある木」

一本の大きな木を育て、美しい森をつくる。多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって社会・経済が大きく転換し、環境変化へのアクションが求められた年となりました。当社は、多くの事業を展開し、広く世の中に製品・サービスを提供していることから、コロナ禍の影響を良くも悪くも、両面で受けた形となりました。自動車関連事業においては、メーカーの操業停止や減産により受注減となった一方、健康関連や巣ごもり需要に関わる事業は好調に推移しました。「一本の大きな木を育てるより、多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。」という企業理念のもと、多様な事業ポートフォリオによって、コロナ禍のリスクを分散させることができました。生産においては、減産が続く現場、連日フル稼働に近い現場が共存し、人員の調整など難しい局面もありましたが、好調な受注が続いているときには着手できなかった現場の改善や生産の自動化推進などが実行できたほか、技術部門では、顧客対応の減少で時間に余裕が生まれたため、一層の技術開発に注力しました。2021年度も環境変化は続くと思われますが、多様な事業展開を強みに対応してまいります。

トップメッセージ

大きな変革期を迎える中、 危機感を持って注視する

2021年度は、昨年度以上に変化の激しい年になると考えており、注視しなければならない外部環境は4点あります。1点目は自動車関連事業に影響がある半導体不足です。2021年半ばには改善するだろうと見込まれていたものの、現在でも改善されていません。2点目は、2021年米国での大寒波によって原料(樹脂)メーカーからの供給がストップしたことで石化材料の高騰を招き、2021年11月現在も続いている点です。3点目は、コロナ禍によるアジアでのサプライチェーンの分断です。ロックダウンにより自動車部品などが輸出されず、自動車メーカーは減産を余儀なくされました。最後は、コンテナ不足による輸出入(物流)の停滞です。

自動車業界が大きな変革期を迎える中で、こうした問題が今後、どのように動いていくのか。コロナ禍の収束が見通せないことも影響する現状を、当社は危機感を持って注視してまいります。

“素材の産業革命”に全社で向き合い、 生き抜く

一方で、厳しい外部環境や社会変化はチャンスでもあり、将来のイノベーションをつくる機会にしていきたいと考えています。新たな時代への過渡期は、当社だけでなく当社のお客様にとっても苦しい時期であるはずですが、社会から要求されるものが、大きく変わり続ける現状に

おいて、素材メーカーとしてお客様や社会の発展に貢献できる機会をいただいていると認識しています。例えば、カーボンニュートラルであれば、これまでの当社ものづくりのやり方では対応が困難であると言わざるをえません。私は社員に向けて「“素材の産業革命”が起きている。従来の技術や生産体制ではこの時代に対応できない」と伝えていきます。いままでとは異なる機能を持った素材が要求されており、すべてを変えていくことでしか成し遂げられないからです。そもそも素材産業は、時代の流れに沿った開発をするために常に変革を遂げなければならない産業であり、さらに現状では世界的規模の課題に対応できなければ生き残ることはできません。技術を担当するメンバーだけでなく、材料、設備、工場、管理部門など当社で働くすべての従業員が一丸となって変革を起こし、対処していく考えです。

40年前に確立した技術を カーボンニュートラルに生かす

当社社名のイノアックは、「常に革新し続けること」(イノベーション)と「それを実践し続けること」(アクション)を由来としてしています。イノベーションは一朝一夕に起こせるものではありません。日ごろの小さな事業活動の積み重ね、ブラッシュアップがイノベーションにつながっていきます。当社は、その姿勢のもと材料開発において中長期的視野にたって革新を続けてきた歴史があります。いまから40年ほど前、第二次オイルショックが収束した後で製品化することはありませんでしたが、

石化材料の代替品であるバイオ材料をヤシ油から生産する技術を確認しています。また、ウレタン製品を原材料に戻す技術や廃材のタイヤを再利用できる素材にする技術など、いまだ言うリユースやリサイクルの推進に欠かせない材料開発を確認し、受け継いでいます。新たな技術や材料は、すぐに受け入れられ活用されるとは限らず、時代の要請に左右されることは否めません。それでもなお当社では未来を見据えた開発を重視し、イノベーションとアクションを続けてきました。カーボンニュートラルの必達求められるいま、まさに当社の技術がなくてはならないものになったと認識しています。すでに製品化し、展開している断熱材「サーマックス」や植物由来原料を50%以上使用した軟質ポリウレタンフォーム「エコロセル」、弾力や通気性などの機能用途に応じて採用したウレタン製の寝具や福祉用具なども、気候変動や今後進む世界の高齢化社会の課題に対応しており、社会に貢献できる企業として実績を積み重ねていると自負しています。



植物由来原料を使用した軟質ポリウレタンフォーム「エコロセル」

トップメッセージ

経営の基盤は地域とグローバル、 両面での社会貢献

当社は、次世代の育成や地域に根ざした事業活動などによって、より良い社会の構築、そして社会的な責任を果たしています。

創立以来、国内外において地域に根ざした雇用を創出しており、日本では東名阪地区以外にも東北に4カ所、九州に6カ所の工場を稼働、海外においてはアジア、中国、北米・中米に合計41社のグループ会社を持ち、国内外いずれも現地採用を中心に実施しています。さらに各拠点が大きな災害に見舞われた場合には、現地に寄り添った復興支援を行っており、当社の拠点は地域に密着した、いわば地場の工場、企業のような位置づけにあると言えます。



また、メーカーである私たちに課せられた使命は、ただモノをつくるのではなく常に良いものを提供することにあります。1985年から「QC・改善世界大会」を日本で開催し、「自分たちのつくる製品で絶対に問題を起こさせない」という強い思いのもと、世界各国の現場の好事例を共有し、生産・技術・品質管理を水平展開しています。

さらに、国内外の優秀な学生への奨学金や大学教員が行う優秀な研究への助成金の拠出を長きにわたり実施し、将来、業界や社会を担う人材ならびに研究を支援、欧米やアジアで活躍している奨学生もでています。

当社のコア事業であるウレタンの発展、価値向上に貢献するため、公益財団法人ポリウレタン国際技術振興財団が主催する「ポリウレタン国際フォーラム」にも協賛しています。

これらの活動全てが当社経営の基盤をなすものだと認識しており、昨今、SDGs達成への貢献が企業に求められる中、イノアックグループは創立以来、社会への貢献を積極的に続けていると自負しています。

また、企業は人でなりたっており、社内においても人材の育成は最重要事項です。グローバル社会においてビジネスや技術はボーダーレスになっているため、世界視野で切磋琢磨し、競争し、生き残っていかねばなりません。島国である日本では、グローバルな視点で情報を吸い上げ、技術開発する人材が育ちにくいという課題がありますが、当社にはグローバル人材を育てるカルチャーが根づいており、若手社員を中心に海外拠点の責任あるポジションでの業務経験を提供しています。

今後、海外拠点のさらなる成長を実現するためには、グローバルな視点を持った現地社員が必要であること

から、日本人に限らずグローバルな人材育成を推進していきます。

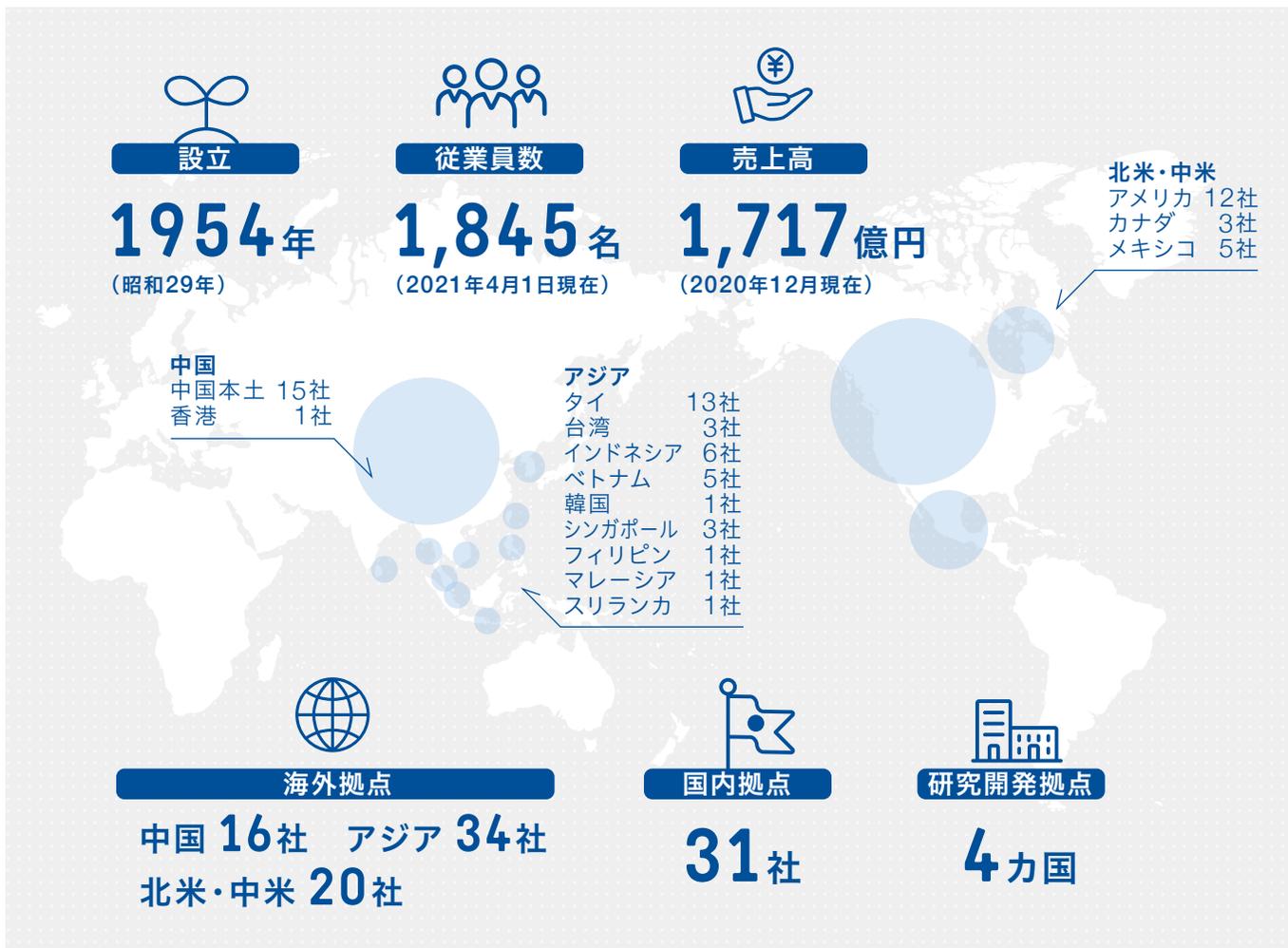
変わることのない精神“社会との共生”で サステナブルを目指す

企業理念にある「多くの個性ある木」とは、事業領域の広さを示すものであり、当社の成長の源泉であると言えます。たとえ大きな環境変化が起きたとしても、常に対応できるものを持っている、あるいは開発する能力を持っているということです。

そして、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」にあるとおり、多様な連携を図り、サステナブルな社会に貢献する企業が求められています。これからも多様なお客様、サプライヤーの皆様をパートナーとして連携し、全社一丸となって一層の努力を行い、カーボンニュートラルを実現する社会を目指してまいります。

会社概要

- 社名 株式会社イノアックコーポレーション
INOAC CORPORATION
- 資本金 7億2,000万円
- 代表 代表取締役 井上 聡一 代表取締役社長 翁 豊彦
- 本社 〒450-0003 愛知県名古屋市東区中村区名駅南二丁目13番4号
本社(東京) 〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 大崎ウエストシティビル4F



■事業内容

素材が拓く、快適なくらし。
INOAC Materials, Comfortable Life

イノアックの事業は大きく5つに分類されます。
取り扱う製品や市場も多岐に渡り、
多様なフィールドで人々の快適な生活を支えています。

1 高機能材料事業

生活用品からIT機器・建築資材に至るまで、さまざまなフィールドで暮らしを支えています。



2 自動車関連事業

内外装製品・機能製品・シート関連製品を供給し、自動車の安全・快適の実現に貢献します。



3 iRCタイヤ

イノアックグループ創業部門であり、二輪車用タイヤ、チューブの専門メーカーです。



4 住環境事業

主に住宅・建築・土木・環境関連の事業を展開しています。



5 寝具・家具事業

快適な眠りを提供するマットレスや、福祉用具ブランド“すみれ”、家具ブランド“HUKLA”を展開しています。

